

棚田ライステラス

第18号 2000.6.30
(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)
連絡協議会
編集／ふるきゃらネットワーク
〒163-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078

前「どうして日本人は米の自由化にこだわるのか」と教育委員会の橋本広綱さん(写真右に尋ね、「その理由を教えてあげよう」と橋本さんが自分の家の棚田に連れていったことがきっかけとなり、以後県内の英語教師たちが棚田を訪れ、福作を体験し、交流している。



僕たちは、田んぼとともに生きてきた

俳優 柳生 博

田んぼがあって小川が流れ、雑木林があって集落がある、そんな田んぼがつくってきた風景が日本の自然です。手つかずの自然是日本にはほとんどないでしょう。そして、日本の生きものというと、海の生物以外、100%といつてもいいくらい田んぼ周辺に暮らす生きものだといえます。つまり僕たち日本人は、遙か昔から里山や棚田の風景に囲まれ、タガメやメダカ、カブト虫にトンボ、そして鳥や小さな獣たちに触れて大きくなったりました。

僕は、TV番組「生きもの地球紀行」のロケ等で多くの国に出かけますが、生きものがこれほど人間の近くにいるのは日本ぐらいです。世界中において、虫の声を聞き、生きものの気配をいつも感じられる国はそうないです。

日本には、生きものや自然とともに案配良く暮らしてきた知恵があり、田んぼを中心に、生きものと遊び、生きものを殺し、生きものの痛みを感じ、喜びも楽しみも辛さも味わってきたのです。ですから僕は、国民の祝日に「田植えの日」があっていいと思っています。この日は、みんな田植えを経験する。農作業の喜びも辛さも味わう。いまやトキが絶滅し、メダカすらも生存の危機にある日本だからこそ、田んぼとともに暮らしてきた感覚を忘れてはならないと思うのです。

僕自身、茨城県霞ヶ浦の周辺で生まれ、棚田に囲まれ、田んぼの手伝いをして育ちましたから、田んぼの経験は僕の原点ですし、いまも毎年、長野県八ヶ岳で米をつくっています。そこで棚田を眺め、田んぼに入ることで自分のいのちをしみじみと感じています。

棚田を見ていると、祈りのようなものが伝わってきます。棚田は、おそらく何千年何百年もの昔、祖先が未来を信じて子へ孫へ曾孫へ玄孫へ、いのちをつなぐためにつくったのです。もしも自分のいのちのことだけを考えていたら、気の遠くなるような労力をかけて、山の奥まで切り拓いたりしなかったでしょう。棚田は、つながってきたいのちの大切さを教えてくれます。だからこそ、棚田は美しく、尊い風景なのだと僕は感じるのです。(談)

取り組み

「棚田地域等緊急保全対策事業」と「棚田地域水と土保全基金事業」が施行されて3年目を迎えました。平成12年度までという期限付きの事業ですが、いかに活用されてきているのでしょうか。また、都道府県レベルで棚田保全及び中山間地域活性化対策はどのようなものが行われているのでしょうか。都道府県にアンケートの回答をお願いしました。

「棚田地域水と土保全基金事業」実施について

- ◆活動状況①資料情報収集
- ◆活動状況②啓発・普及のための資料作成
- ◆活動状況③住民活動の支援
- ◆活動状況④そのほか

- ①:なし
 ②:「ふるさと・水と土-北海道-」を保全対策事業と合同で作成。
 ③:なし
 ④:なし

- ①:国からの資料・情報以外に特別に収集していない。
 ②:特別な資料は作成していない。
 ③:運用益が少ないため、支援を行っていない。
 ④:棚田地域等緊急保全対策事業を実施している地域の集落共同保全活動の利活用構想・活動計画の作成費に活用することにしている。

<実施していない理由>県財政事情による。

<実施していない理由>残念ながら宮城県は財政状況が危機的な状態から、これまで以上に緊急度、優先度の高い事業を厳選し、コストの縮減に取り組んでいることから新規事業は抑制している状況にある。

- ①:—— ②:活動事例集を作成。
 ③:—— ④:今後の実施となるため、該当なし。

- ①:なし ②:なし
 ③:なし ④:なし

<実施していない理由>条件的にあった他事業によって対応している。

- ①:啓発・普及パンフレット用資料「棚田の水の動き」を収集。
 ②:PRパンフレット「棚田」を作成。
 ③:未実施 ④:なし

- ①:—— ②:平成12年度より運用益及び一部取り崩しにより、棚田百選のPRパンフを作成予定。
 ③:現在のところなし ④:現在なし

- ①:他県等からのパンフレットなどを収集。
 ②:——
 ③:棚田(畑)地域等の農地や土地改良施設の維持管理に対し、県基金からその経費を支援する予定。
 ④:——

- ①:基金運用益が少ないため、実施していない。
 ②:同上 ③:同上 ④:同上

<実施していない理由>県の財政状況がたいへん厳しく、また今後も大幅な財源不足が見込まれるため。

<実施していない理由>本都では該当する棚田がないため、本基金を設置していない。

<実施していない理由>県内において棚田地域の設定がないため。

- ①:——
 ②:国が作成したものと同じようなパンフレットを作成し、事業のPR活動を行った。
 ③:——
 ④:——

- ①:—— ②:—— ③:「ふるさと棚田支援事業」において、棚田保全組織への支援(資材・機材 ex:草刈り機、あぜ道の敷砂利など)として、市町村が補助した金額の1/2を(補助限度額50万円/地区)行っている。平成12年度実施計画は3地区(飯山市・福山新田棚田保存会2ha、八坂村・八坂村棚田保全委員会5.3ha、中条村・中条村田んぼの会7ha)(資料より) ④:——

そのほか棚田保全・中山間地域活性化対策について

- ◆事業名とその詳細

- ◆そのほか

- 特筆すべきエピソード、地域の声、意見感想、問題点、知りたい情報など

- なし ◆「中山間ふるさと・水と土保全対策事業基金」の造成。基金総額18億4千万円において、保全・利活用活動等推進のための調査や人材育成、アドバイザーの派遣などを行なう。また、道内100市町村で「市町村基金」を設置し(基金標準額1千万円/市町村)、地域の用排水路、ため池や農地の保全整備・維持活動に対する助成、資材の提供や住民活動に関するイベントの開催、助成等を行なっている。(資料より)

- 特になし 前述の2つの事業以外は実施していない。

- なし ◆「ふるさと水と土保全基金」 ○基金:7億4116万2千円 ○開始時期:平成5年～ ○内容:・パンフレット作成・ふるさと水と土指導員の育成・啓蒙活動 ホタル生息調査(地元小学生対象)

- ◆――

- なし ◆――

- ◆――

- ◆なし

- ◆――

- 特になし ◆なし

- ◆「ふるさと水と土基金事業」により、指導員の全国研修会への派遣、指導員との意見交換会の開催を行なうほか、保全マップの作成等を行なっている。

- ◆――

- ◆なし

- ◆――

- 運用益が非常に少ないので、十分な活動が展開できない。

- ◆「ふるさと水とふれあい事業」「ふるさと水と土基金事業」により、毎年1～2地区を採択し、保全モデル事業を当初より実施するほか、基金を利用して農業まつり等でPR活動を行ったり、地元イベントにも参加し、PR活動を行なっている。

- ◆――

棚田保全、都道府県の

都道府県名	ハード事業「棚田地域等緊急保全対策事業」実施について（実施予定含）				ソフト事業
	◆都道府県負担割合 ◆都道府県負担額／実施総額	◆実施市町村数／全市町村数 ◆実施地区数 ◆実施総面積	特筆すべきエピソード、地域の声、意見感想、問題点など	事業継続への要望等	
北海道	◆0% ◆0円／1億100万円	◆2／212市町村 ◆2地区 ◆112ha	北海道には基本的に棚田が存在しないため、急傾斜水田地域での地区採択となり、地元に当事業の趣旨が十分理解されていない面がある。	—	◆平成10年度 ◆1億円 ◆—
青森県	◆18% ◆1260万円／7000万円	◆1／67市町村 ◆1地区 ◆25ha	特になし。	調査の時間がなく、地元の充分な意向が聞き取れていない。	◆平成10年度 ◆9000万円 ◆—
岩手県	◆30% ◆1億266万9千円／3億4222万円7千円	◆2／59市町村 ◆3地区 ◆20.9ha	急傾斜地で受益面積が少ない地域では、他事業での実施がむずかしいため、有効な事業であると思う。	—	なし
宮城県	なし	<実施していない理由>残念ながら宮城県は財政状況が危機的な状態から、これまで以上に緊急性、優先度の高い事業を厳選し、コストの縮減に取り組んでいることから新規事業は抑制している状況にある。			
秋田県	なし	<実施していない理由>県内に事業内容と合致する要望地区がない。			
山形県	◆15% ◆712万6千円／4651万9千円（事務費含）	◆1／44市町村 ◆1地区 ◆28.7ha（受益面積）	—	—	◆平成10年度～11年度 ◆3億円 ◆—
福島県	なし	<実施していない理由>条件的にあった他事業によって対応している。			
茨城県	◆30%（財政力指数の高い市町村は20%） ◆3940万円／1億4700万円	◆4／85市町村 ◆4地区 ◆17.44ha	特になし	—	◆平成10年度 ◆3億6000万円 ◆—
栃木県	なし	<実施していない理由>PR活動はしているが、なかなか地区設定ができなかった。			
群馬県	◆県営・団体営同一計画策定事業25% 保全整備等事業30% ◆2億6088万円／8億6960万円	◆11／70市町村 ◆13地区 ◆64.3ha（受益面積）	地区の要望として、道路が狭いことから道路整備の希望が高いが、拡幅するためには、既存の石積み等を撤去する必要があり、その石積みを復旧するには構造的な問題もあり、景観が安全かで現場では苦慮している。	小規模な区域を事業化することが可能なため、他の既存事業では事業化することが困難であった区域が整備でき、高補助率でもあるため、市町村に対しても人気があり、議会（常任委員会）に対してもたいへん受けの良い事業である。	◆基金造成は平成10年度～、事業実施は平成11年度～ ◆3億円（平成11年度末） ＊平成12年度も造成予定 ◆取り崩しを行っている。
埼玉県	なし	<実施していない理由>棚田面積が少ないため。			
千葉県	なし	<実施していない理由>実施希望地区がない。			
東京都	なし	<実施していない理由>本都では、該当する棚田がないため、本事業を実施していない。			
神奈川県	なし	<実施していない理由>県内において棚田地域を設定していないため。			
山梨県	◆20% ◆4694万円／2億4070万円	◆3／64市町村 ◆3地区 ◆8.96ha	○地元住民の方が保有している財産（農村風景）に気がつき、保全しようという意識が生まれた。 ○自分たちの地区を改めて見直している。	—	◆平成10年度 ◆4億5000万円 ◆—
長野県	◆10% ◆2000万円／2億円	◆15／120市町村 ◆20地区 ◆150ha	—	継続を望んでいる。中山間地域等直接支払制度との連携を行っていくため。	◆平成10年度 ◆2億8000万円（予定）（平成11年末1億9000万円） ◆—

「棚田地域水と土保全基金事業」実施について

- ◆活動状況①資料情報収集
- ◆活動状況②啓発・普及のための資料作成
- ◆活動状況③住民活動の支援
- ◆活動状況④そのほか

- ①:○棚田保全活動事例について ○ボランティア活動組織について収集。
- ②:棚田パンフレット2種作成。「静岡県棚田等十選」「未来に残したい棚田 わたしたちの手で守ろう」。
- ③:○県棚田等十選選定委員会の組織化(有識者)。○県棚田等十選の認定。○十選地区での棚田保全推進委員会の組織化。○棚田保全活動への支援事業(H11、2ヶ所 H12、2ヶ所)。○棚田復元技術確立事業(平成12、1ヶ所)。○ボランティア組織「しづおか棚田くらぶ」の支援。
- ④:「しづおか棚田くらぶ」の活動支援。

「しづおか棚田くらぶ」は、会員181人(平成12年2月22日現在)が、県内の棚田で草刈り、復田、田植えなどを行い、棚田の保全活動を行うもの。棚田の保全活動を通じ、環境・食料・農業・農村などの研究・学習・情報交換を行い、地域の活性化を推進する。入会金:家族・個人1000円、法人・団体1万円、年会費なし。

- ①:基金を使用しての資料収集等の活動は、現在のところ実施していない。(本県は、保全活動支援事業のみ財政に認められているため。)
- ②:同上。基金で作成したものではないが、棚田保全への取り組みにかかるパンフレット「新潟県棚田保全への取り組み」を作成している。
- ③:同上。
- ④:――

- ①:他県の棚田保全活動の取り組み状況や他県の棚田オーナー制度の取り組み状況を収集。
- ②:棚田保全の啓発ポスター、棚田保全のパンフレット、棚田保全の手びきを作成。
- ③:平成12年度より「棚田保全活動支援事業」を実施予定。
 - 棚田保全方針策定…1市町村20万円以内の助成。
 - 棚田保全活動…1集落当たり50万円以内(事業主体は市町村)市町村の棚田保全地域選定を受け、保全活動協定等が締結された集落等を対象に、人件費を除く諸資機材費等に助成。
- ④:特になし

- ①:該当なし ②:該当なし
- ③:○集落組織の設立・運営。○オーナー制の農園の整備、運営、交流イベント。○パンフレットの作成。等これらの事業に対し、経費の1/2を補助している。
- ④:なし

- ①:なし
- ②:なし
- ③:平成12年度より集落に対し、資機材の支援を計画している。
- ④:なし

- ①:県下の棚田地域について、その分布状況、農業基盤の整備状況等を市町村を通じて調査し、その調査結果を調査票及び位置図に記載し、「棚田マップ」を作成した。
- ②:棚田の多面的な機能、「棚田地域水と土保全基金」、「棚田地域等緊急保全対策事業」の制度内容を記載したパンフレットを作成。
- ③:行っていない。
- ④:平成12年度計画 ○イベント時に棚田保全をPRするコーナーを設けて活動する費用として。○市町村が棚田保全施策を推進するのに対しての補助。

- <実施していない理由> (1) 愛知県は平地農地が多く、中山間農地が県耕地面積の8.2%で対象農地が少ない。
 (2) 棚田支援は、既存のふるさと基金で対応可能で、支援対象の1町村当たりの既存基金を換算しても他県に比して高い。
 (3) 県財政状況が厳しい。

- <実施していない理由>近年の県税収入の大幅減少。景気回復の見込み少。以上により新規の基金造成は全般的に抑制されている。

- ①:―― ②:―― ③:――
- ④:基金の運用益の使用は、平成11年度から、平成11年度は保全活動の推進事業として、棚田フォーラム「しがの棚田保全と整備を考える」を9月に実施した。

- ①:―― ②:リーフレットの作成。
- ③:大江町毛原地区でのワークショップ(毛原グラウンドワーク実行委員会主催)で地域資源の発掘などを行い、棚田保全活動を模索)を支援。
- ④:平成12年度から「ふるさと保全クラブ」として活動を検討中。

- ①:――
- ②:基金事業ではないが、パンフレット、リーフレットを作成した。
- ③:今年度から実施。棚田地域農家が府民ボランティアとともに実行する保全活動経費(維持管理)に対して支援。
- ④:府民ファンクラブ「棚田ふるさとファンクラブ」の運用資金に活用。会員は現在約240名。

そのほか棚田保全・中山間地域活性化対策について

- ◆事業名とその詳細
- ◆そのほか

- ◆「静岡県緑と水のふるさとづくり推進事業」
 ○ふるさと指導員、推進員の研修。○農村景観写真コンクール。○地域住民活動支援事業(10ヶ所)。○自然観察ガイドブックの配布。○ふるさと情報誌(新田舎人)の発行。

◆――

特筆すべきエピソード、地域の声、意見感想、問題点、知りたい情報など

「しづおか棚田くらぶ」事務局をNPO法人等への移行について検討中。

なし

- ◆「中山間地域総合整備事業」「農地環境整備事業」「ふるさと水と土ふれあい事業」「ふるさと水と土保全対策事業」(資料より)
- ◆平成11年に県職員の中から、棚田の農道や水路等の草刈りなどを支援する「ECHIGO棚田サポート」の結成が呼びかけられた。事務局:新潟県農地部農村環境課 会員約400名、年会費2千円。

直接支払制度との使い分けをどうするか、耕作放棄地の復旧に伴う新規開田の取り扱いをどうするのか。

なし

- ◆特になし
- ◆なし

なし

- ◆「棚田ビュースポット整備事業」(県単)
 日本の棚田百選に認定された地区について、このことをPRする看板を設置するとともに、該当町が周辺の整備を行うことにより連携を図る。予算200万円。
- ◆なし

なし

- ◆○「中山間地域総合整備事業」18地区実施 18市町村 総事業費323億3630万円
 ○「ふるさと水と土ふれあい事業」19地区実施 16市町村 総事業費17億4950万円

◆――

――

- ◆――
- ◆――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

都道府県名	ハード事業「棚田地域等緊急保全対策事業」実施について（実施予定含）				ソフト事業
	◆都道府県負担割合 ◆都道府県負担額／実施総額	◆実施市町村数／全市町村数 ◆実施地区数 ◆実施総面積	特筆すべきエピソード、地域の声、意見感想、問題点など	事業継続への要望等	
静岡県	◆15% ◆3420万円／2億2800万円	◆5／74市町村 ◆6地区 ◆用排水路352m、農道改良等1330m、水源改修5ヶ所、橋梁工1ヶ所	地元で必要な整備が適切な水準で実施できるため、喜ばれている。	事業継続を望むが、当初から期限付きであったため、採択されなかった地区は別事業対応を検討している。平成12年度は予算がカットされているため、地区完了の形が残せるだけの事業費の復活を要望したい。	◆平成10年度（2月補正） ◆3億円（平成11年度未現在） ◆――
新潟県	◆20～25% ◆9億115万2千円／29億1001万円（H9～H12合計）	◆22／112市町村 ◆50地区（H9～H12合計） ◆392.5ha（H9～H12合計）	保全利活用活動促進事業の中の自主施工資材支給について。この工種の中で行う農道舗装については、道路幅員や勾配の制限がないため、地元の意見がストレートに反響でき、地元からとても喜ばれている。	本県においては、当初の事業実施地区のうち、平成12年度までに50地区が採択され、実施してきた。しかしながら19地区が採択残となっている。なお、自主施工の工種の良さが現在、地元に浸透しているため、実施要望地区はもっと多くなるものと思われる。継続年数については、地すべり地域内での棚田が多いことから、できるだけ長い期間を要望する。	◆平成10年度 ◆6億円（平成12年度までに総額8億6000万円を造成する計画） ◆――
富山县	◆10～25% ◆3億7658万7千円／15億6686万円	◆14／35市町村 ◆30地区 ◆468.2ha	簡易な手続き：(1)法手続がないため、耕作者主導で事業が実施。（2）事業採択手続きが簡単。（3）支障となる箇所のみの整備が実施できるため、地元農家が払える範囲内で事業費を設定。以上のことより集落の創意工夫による整備を実施し、集落ぐるみの営農が展開されている。水見市棚田オーナー制の条件整備を実施。（都市住民のための農作業準備施設等を造成）。八尾町では、事業に取り組むにあたって、集落営農の組織化が進んだ。	継続を望む。簡易な整備手法により、棚田地域の営農条件の改善に大きな効果を上げてきた。不利な生産活動を支援するための直接支払いを行うにしても生産基盤の整備は不可欠と考えている。高齢化に伴い、集落ぐるみの管理が増加していくと考えられる。このため直接支払制度のための集落協定が順調に進むためにも5ヶ年は必要と思う。	◆平成10年度 ◆4億2000万円（平成12年度まで6億円の予定） ◆県債、国債、大口定期を利用
石川県	◆10～25% ◆2億9418万5500円／12億2648万2千円	◆9／41市町村 ◆17地区 ◆96.8ha（受益面積計）	なし	平成12年度から実施される直接支払制度と連携する上で、当面5年程度の継続が必要と思われる。	◆平成10年度 ◆6億円 ◆――
福井県	◆県営30% 団体営20% ◆2億3580万円／9億7100万円	◆7／35市町村 ◆13地区 ◆79.4ha	沿岸沿いの棚田において、従前は船で耕作に行っていたが、本事業により農道整備を行い、ほ場まで農耕車で乗り入れ可能となり、地元農家の営農に対する意欲が高まっている。	継続要望。棚田地域の意欲ある農家に対し、緻密な土地改良事業を実施する上で高率補助である本事業が最も望まれるため。	◆平成10年度 ◆6億円 ◆――
岐阜県	◆18% ◆1億4324万円／7億9577万8千円（事務費含まない）	◆8／99市町村 ◆22地区 ◆60.9ha（受益面積）	――	継続を望む。<理由>本県においては、まだ未整備地区が多い（53地区＝H11.1.県調査結果による。応分の費用負担を伴うとしても整備が必要な地区数）ため、即効性があり、かつ効果の継続が図られる本事業の継続を望む。継続期間は約10年の継続が必要と思われる。	◆平成10年度 ◆6億円 ◆県債を利用
愛知県	なし	<実施していない理由>ハード事業（棚緊）の賦存量調査においても要望がない。	特になし	なし	
三重県	◆30%（事務費25%） ◆1億6020万円／5億3400万円	◆5／69市町村 ◆6地区 ◆30ha	――	継続を望む。本県において、12年度継続地区2地区中1地区について、計画事業の一部が未完となる可能性が高くなっているが、計画の全てを本事業で対応し、事業実施の効果発現を図りたい。あと1年は必要。	なし
滋賀県	なし	<実施していない理由>条件的に、中山間地域総合整備事業、ふるさと水と土ふれあい事業で対応しているため。	特になし		◆平成10年度 ◆現在4億5000万円 ◆最終補正予算で積んんでいる。
京都府	◆10～20% ◆4600万6千円／2億4580万円	◆7／43市町村（京都市除く） ◆11地区 ◆76.5ha（受益地）	棚田地域は今なお耕作放棄地が広がりつつあるが、本事業の実施地区においては、耕作放棄地がない。	中山間地域においては、今もって鳥獣による被害が絶えない。今後も国庫補助事業の中で鳥獣害防止柵の実施を要望する。当面、鳥獣被害が緩和され、農家の営農意欲の増進が図られるまで、事業継続を希望する。	◆平成10年度（11年度基金積増しはゼロ） ◆2億円（棚田基金） ◆自由金利型定期預金として運用。
大阪府	◆15% ◆525万円／3500万円	◆1／44市町村 ◆1地区 ◆農道280m（実施総量）	――	継続を望む。（数は特定できないが）	◆平成10年度 ◆約6500万円 ◆――

「棚田地域水と土保全基金事業」実施について

- ◆活動状況①資料情報収集
- ◆活動状況②啓発・普及のための資料作成
- ◆活動状況③住民活動の支援
- ◆活動状況④そのほか

- ①:新聞紙等による情報収集。
 ②:基金による資料作成は行っていない。
 ③:集落が行う棚田の保全推進活動への支援を実施。
 ○推進会議の開催経費。
 ○共同作業に要する経費等。
 ④:――

特筆すべきエピソード、
 地域の声、意見感想、
 問題点、知りたい情報
 など

そのほか棚田保全・中山間地域活性化対策について

- ◆事業名とその詳細
- ◆そのほか

◆中山間地域支援活動事業として、棚田保全ボランティアである「棚田交流人(たなだこうりゅうびと)」の募集を行い、県内の11ヶ所の棚田で保全活動を行っている。平成12年度の予算額は175万2千円(国費1/2 一般1/2)。棚田交流人を約100人募集し、棚田支援研修会の開催、体験交流会の開催、棚田の普及啓発の実施等を行う。

- ①:保全活動支援事業に取り組む場合、反当支援補助額に関する情報の収集。
 ②:棚田のパンフレットの作成
 (1)棚田の機能 (2)棚田の危機 (3)保全対策 (4)保全組織
 ③:いまだ取り組んでいない。
 ④:ボランティア組織については平成12年度実施予定。棚田救援隊の募集要項を作成予定。

- ①:県内の棚田資料の収集。
 ②:――
 ③:――
 ④:特になし

基金事業により、県ホームページ内に「棚田ってなんだろう」を掲載。棚田の保全活動に参加したい旨のメール返答もある。

- ①:(1)他県の活動 (2)棚田の有効活用の事例 (3)ふるきやら情報 (4)棚田学会 (5)新聞記事
 ②:(1)棚田保全活動事業説明パンフ (2)棚田ボランティア隊募集 (3)棚田オーナー募集 (4)棚田ファンクラブ通信 (5)ふるさと情報誌「草笛」への記事提供 (6)各種機関誌等への投稿 (7)マスコミへの情報提供 (8)インターネットホームページの作成
 ③:(1)棚田保全活動への支援 ○ボランティア隊の派遣 ○棚田保全資材の支援 ○オーナー制等有効活用の支援
 ④:(1)ボランティア隊の活動(H10~) (2)棚田保全資材の支援(H12~)
 (3)小学生のための棚田読本の作成(H12~) (4)若手後継者の県外研修(H11~) (5)農家と都市住民への棚田活用に関するアンケート調査(H12~)

棚田ファンクラブ、ボランティア派遣を進めていく中で、参加者の女性グループが、集落と独自に交流を進め、集落とのかかわりをもちたいと、棚田を応援する女性グループ「風かおる」が結成された。活動を通じて、むらづくりや都市との交流を進めるきっかけをつくりたいと行ってきたが、都市の民間グループが誕生したことは、たいへんうれしいと感じている。

- ◆(1)「うるおいのある村づくり事業」集落の村づくりのためにハードとともに、ソフト事業(例:木工品や加工品づくりへの支援)を行う。
- (2)「棚田を活用した放牧事業」(H12~)
- (3)「田舎暮らし体験事業」(H12~)
- ◆○棚田基金の保全活動支援事業においての1%枠はなしにした方が良い。
- 田植え支援等にも助成できるようにした方が良い。
- 2002年棚田サミットに立候補している。(国民文化祭開催年度)

- ①:――
 ②:棚田地域啓発のためのビデオ作成。
 ③:――
 ④:平成12年度中に今後の予定を決定する予定。

- ①:棚田保存活動等PR写真撮影。
 ②:今後行う予定。(運用益が少なかったため)
 ③:今後行う予定。
 ④:「棚田保存のつどい」への協力。21世紀おかやま農林水産業活性化対策本部と岡山県・市町村が主体となり、「地域環境創造実践活動推進事業」を開催している。この事業の一つとして、美しい村づくり「棚田保存のつどい」(棚田地域の草刈りや植栽等の維持保全活動を行う)を実施している。

- ①:特にない。
 ②:平成10年度に「多様な機能を果たす『棚田』を守るために」パンフレット作成。
 ③:棚田地域の保全活動(草刈り等)を行う地域住民組織に対し、保全活動に要する費用を市町村を経由して年間50万円を補助している。
 ④:特になし

- ①:――
 ②:棚田のもつ機能、景観等を県民へPRするため、山口県棚田マップの作成を計画している。
 ③:棚田を抱える集落において、集落の実態把握及び、棚田(耕作放棄地含む)と土地改良施設の保全・利活用・景観形成活動の支援を計画している。
 ④:――

- ①:他県における活動状況の情報収集。
 ②:―― ③:行っていない。
 ④:平成11年度は、初年度であり、運用益が少額であったため、保全活動の推進にかかる事業として、指導者育成研修等を行った。平成12年度は推進事業として、棚田管理実体調査を予定している。

- ①:「新田舎人」、図書「棚田はエライ」を収集。
 ②:現在、作成していない。
 ③:○棚田農地の保全が持続的に行われるための活動(草刈り、道水路臨時の維持補修)。○耕作放棄地の解消をするための活動(棚田の復元、景観保全植物の植栽)。○地域の活性化に資する活動(都市住民との交流のためのイベント)。上記等の活動に1地区50万円ぐらいの支援をしている。
 ④:特になし

特になし

- ◆なし
- ◆なし

中山間地域直接支払制度との使い分けをしている事例があれば教えてほしい。

- ◆特になし
- ◆――

都道府県名	ハード事業「棚田地域等緊急保全対策事業」実施について（実施予定含）				ソフト事業
	◆都道府県負担割合 ◆都道府県負担額／実施総額	◆実施市町村数／全市町村数 ◆実施地区数 ◆実施総面積	特筆すべきエピソード、地域の声、意見感想、問題点など	事業継続への要望等	
兵庫県	◆0～20% ◆1億6982万円／9億1600万円	◆6／88市町村 ◆7地区 ◆78.5ha	棚田を整備する場合、通常のほ場整備事業と異なり、景観に配慮した計画が必要となる。特に、オーナー制度を活用した地区においては、単に利便性・効率性のみを追求した整備をしたとすれば、都市部のオーナーにとって魅力ないものになってしまう。たとえば、加美町岩座神地区では、あくまで文化遺産としての見地から整備を進めるために地元、都市住民、大学教授、施工関係者から成る委員会を構成し、計画の策定にあたった。いまだ事業実施中であるため、結果が未知数であるが、計画策定の形としては望ましいと考える。	新規地区的玉出しに時間が短く、総枠の関係で採択されなかつた地区もあるため、5年程度の延長が必要だと考える。	◆平成10年度 ◆10億円 ◆1ヶ月ごとに入札を行い、運用率の高い金融機関に預けている。
奈良県	◆15～20% ◆3318万円／1億7340万円	◆1／47市町村 ◆1地区 ◆13.4ha	<当県の採択要件> (1) 生産基盤整備が不十分により、耕作放棄地の拡大が予想される棚田地域。(2) 集落として保全対策に合意がなされている。(3) 市町村が農地の保全、利活用の促進のための方針を策定している地域。(4) 実施地区的選定は、当県の特質を活かした歴史的風土の保全、観光促進、景観保全等に重点を置いた地域。*単なる棚田の整備には財政当局は難色。		◆平成10年度 ◆6億円 ◆金融機関に定期預金
和歌山県	◆20% ◆4160万円／2億800万円	◆6／50市町村 ◆9地区 ◆—	特になし	本県みたいな、中山間地を多くかかえている県としては、受益地が小規模でもできるこの事業については、望む声が多いため、継続的な実施を望んでいる。	◆平成10年度 ◆6億円(平成10～12年度)
鳥取県	◆0～20% ◆6758万3千円／4億9634万円	◆4／39市町村 ◆8地区(うちほ場整備2地区) ◆2.0ha(ほ場整備) 農道、水路、猪防 止柵がほとんど。 ほ場整備は少ない。	(1) 猪防止柵の設置について、効果が上がっており、農家に好評。 (2) 一工種でも実施できるところから、小回り、即効性があり、好評。	継続を望む。本事業の継続もしくは、代替えとなる事業を創設してほしい。	◆平成10～12年度 ◆4億5000万円 ◆平成11年度から県債運用をしている。
島根県	◆県営30% 団体営20% ◆2億6454万2千円／9億9224万円	◆5／59市町村 ◆15地区 ◆177.6ha(受益面積)	現時点ではなし。	3年間程度の継続が必要と思われる。既存事業の実施により棚田地域の重要性が県内に浸透してきていると思われる所以、新規採択の希望があると考えられる。	◆平成10年度 ◆6億3000万円(平成12年度末予定)
岡山県	◆20% ◆2億4103万2千円／12億516万円(総事業費)	◆14／78市町村 ◆18地区 ◆—	受益面積が狭小で、効果の発現がむずかしい棚田地域において保全事業が実施できた。	多面的機能を有する棚田地域を永久に残す必要があるとコンセンサスが取れるなら、継続的に当事業を残すべきであると考える。	◆平成10～12年度 ◆6億円 ◆—
広島県	◆0～10% (事業種類により異なる) ◆4700万1千円／5億499万円	◆5／86市町村 ◆5(3)地区 ◆13.49ha	整備すべき地域は多数あると思われるが、負担金の問題などで、市町村が実施地区を選定できなかった。	小回りの利く事業なので継続を望む。5年程度。	◆平成10年度～(H10.12.11) ◆2億5000万円(平成12年度予定) ◆銀行定期預金等
山口県	◆25% ◆5億830万円／20億3320万円	◆18／56市町村 ◆22地区 ◆156.5ha	—	望む。山口県については1／20以上の急傾斜地があり、早急な整備が必要である。10年間の継続を望む。	◆平成10年度 ◆3億5000万円 ◆—
徳島県	◆0～20% ◆5551万8千円／3億3000万円	◆2／50市町村 ◆2地区 ◆3.4ha 受益21.2ha	農村景観の保全をし、農業を中心として成り立ってきた日本の伝統を後世へ伝えるという意味からも、棚田保全は重要な役割を担っていると思う。	平成12年度をもって本事業は廃止されるが、本県においては2地区で実施しており、この地区をモデル地区として、棚田の保全等美しい農村景観の保全に取り組んでいきたいと思うので、あと5年ぐらいは継続してほしい。	◆平成10年度 ◆6億3000万円 ◆特になし
香川県	◆25% ただし、農業振興・保全・利活用効率化施設整備(用地整備を除く)及び特認事業については0% ◆6257万5千円／2億6800万円	◆4／43市町村 ◆6地区 ◆29.1ha	事業実施後の農家の声として、身近な農業施設、生活環境施設が整備され、喜ばれている。	中山間総合整備事業等の既存事業を本事業でフォローアップすることにより、中山間地域のより一層充実した整備が図られるため、継続を望む。	◆平成10年度～ ◆6億円 ◆特になし

※これらの表は、都道府県各担当者からのアンケート回答に基本的に準じています。無回答の箇所、表記の必要性がなかったものを——で表わしております。

「棚田地域水と土保全基金事業」実施について

そのほか棚田保全・中山間地域活性化対策について

◆活動状況①資料情報収集 ◆活動状況②啓発・普及のための資料作成 ◆活動状況③住民活動の支援 ◆活動状況④そのほか	特筆すべきエピソード、地域の声、意見感想、問題点、知りたい情報など	◆事業名とその詳細 ◆そのほか
①:保全活動支援事業に関する資料収集を行いたいと思っているが、現在はまだ収集していない。 ②:啓発・普及用パンフレット「棚田や段畑の保全を目指して」を作成。 ③:行っていない。 ④:なし	保全活動支援事業の実施事例等に関する情報を収集したい。(民間資金の受け入れ体制等も含む)	◆なし ◆なし
①:— ②:— ③:支援は行っていない。 ④:—	—	◆「棚田地域等緊急保全対策事業」「棚田地域水と土保全基金事業」を説明し、棚田の公益的機能を紹介するパンフレット「棚田は生きている」を作成。 ◆高知県で新たに農業をはじめるためのノウハウを学ぶ「高知県新しいなかビジネススクール」を開校し、運営している。(資料より)
①:市町村主催の町民まつり情報、地域住民活動の新聞記事の収集。 ②:「星野村の棚田ものがたり」パンフレット作成。 ③:現在、住民活動の組織づくりに取り組んでいる状況にあるので、今後支援を行う予定である。 ④:○棚田写真展開催(H12.9予定) ○棚田見学会企画(H13.3ごろ予定) ○インターネット上にホームページを開設(H13.3ごろ予定)	基金の運用益での事業実施という性格上、運用方法や活動が担当者の创意工夫に委ねられる面があり、たいへん面白い。	◆— ◆—
①:該当なし ②:県内の棚田百選6地区を紹介した棚田保全パンフレット「棚田」を作成。 ③:平成13年度から支援事業を計画している。保全活動推進方針策定のための実態調査をモデル的に3地区で実施している。 ④:該当なし	なし	◆県単事業「活力ある中山間地域拠点整備事業」で、むらづくり塾、交流会の開催、むらづくりPRの実施、農地有効活用及び新規作物等導入、高付加価値促進のための機械・施設等の整備を行っている。平成12年度4600万円。平均事業費:1市町村50万円。 「小規模農業農村整備事業」で、高付加価値農業支援、農地・資源保全、集落機能増進のため、かんがい排水、農道整備等への助成を行う。平成12年度8176万円。(詳細は資料より) ◆なし
①:棚田地域の航空写真、中山間地域の実態調査、啓発用資料作成。 ②:平成12年度棚田パンフレットを作成。 ③:平成12年予定、2集落において協定に基づく保全・利活用への活動費支援。 ④:特になし	なし	◆中山間ふるさと水と土保全対策として、「ふるさと水と土ふれあい事業」「中山間地域総合整備事業」「ふるさと水と土基金」(県の基金造成額:10億368万円、市町村の基金造成額:8億5000万円)などを行っている。(資料より) ◆なし
①:全国の棚田地域保全対策の概要(パンフレットやポスター)、地域情報を収集したいが、個々に依頼をしなければならず、非常にたいへん。現在、サミットに参加した際にいただいたり、個別に送っていただいたり、インターネットによって集める程度である。 ②:棚田百選県内認定棚田のガイド本(A5オールカラー16p)、県内棚田地域情報誌(A4オールカラー16p)を作成。 ③:本年度から支援予定。④:—	前述したことおり、平成11年度に情報誌やガイド本を作成したところ、県内外からの配布依頼が相次ぎ、住民の方々の棚田への関心を再確認した。 知りたい情報として、棚田基金へ民間資金の導入をしている自治体がどのくらいあるか? また導入方法など詳細について。	◆— ◆—
①:地域の方々の意見や棚田風景等の写真を収集。 ②:写真コンテストの実施やインターネットHPの作成。 ③:支援事業は直接支払制度との関係を調整中のため、着手していない。(局を通じ、本省に問い合わせをしている) ④:特になし	事業立ち上げのためのPR活動として写真コンテストを開催している。多くの方から問い合わせがあり、関心の高さを感じた。ただ、一部の方より棚田をあまり美化しすぎることばかりでなく、本当に農業のたいへんさ等を理解すべきであるとの意見もあった。	◆特になし ◆—
①:県内の棚田の分布状況(位置、面積、名称、整備状況など)について調査するとともに、それらのうち景観・維持管理状況等において優れている棚田について、棚田の四季、農作業風景等の撮影(ネガ・ポジ)の作成を行っている。 ②:平成11年度、基金の運用益を活用し、棚田の啓発パンフレット「棚田ってすごい」を作成。現在、前述のとおり、啓発・普及のための資料作成に向けて、県内の棚田についての情報収集・資料のとりまとめ中であり、この作業に数ヶ年を要する見込みである。 ③:支援すべき棚田の台帳が整備されていない。まだ支援は行っていない。また、支援は、基金の運用益と民間からの寄付金をもって当てるこになっているが、現在の預金利は非常に低く、棚田基金の運用益(基金利子の果実)はわずかである。中山間直接支払制度が平成12年度から実施されるが、この中で土地改良区や水利組合への支払いも検討されていることなどから、支援方針(要件、対象面積、支援内容)や予算獲得、他関連事業との調整など、今後検討・解決すべき課題が多い。 ④:なし	なし	◆なし ◆なし
①:県内の棚田の情報収集。 ②:ホームページを作成。 http://chukakunet.pref.kagoshima.jp/home/noseibika/kikin/index.html ③:該当なし ④:該当なし	該当なし	◆該当なし ◆該当なし
<実施していない理由>本県においては棚田に該当するような水田はないため。	—	◆— ◆—

都道府県名	ハード事業「棚田地域等緊急保全対策事業」実施について（実施予定含）				ソフト事業
	◆都道府県負担割合 ◆都道府県負担額／実施総額	◆実施市町村数／全市町村数 ◆実施地区数 ◆実施総面積	特筆すべきエピソード、地域の声、意見感想、問題点など	事業継続への要望等	
愛媛県	◆0%（計画策定、公園施設、箱もの、特認、ソフト事業）、20%（左記以外） ◆2億14万8千円／10億6896万円（事務費抜事業費ベース）	◆12／70市町村 ◆9地区 ◆7.8ha（区画整理）	なし	継続を望む。従来の基盤整備に比べ、きめ細やかな整備ができ、各市町村等からの事業実施要望も強い。5年の継続が必要。	◆平成10年12月28日～ ◆平成12年度までに6億4000万円の造成予定 ◆大口定期預金にて運用。
高知県	◆20% ◆3億800万円／15億4000万円	◆12／53市町村 ◆22地区（6） ◆109.9ha（総受益面積）（ほ場6.4ha）	ほ場整備の実施地区では、從前32筆の水田が2筆になり、乗用トラクターの進入が可能になるなど、格段に営農労力の軽減が図られた。また、人肩による運搬も、農道の改修により軽トラックが進入できるようになり、農家にも喜ばれている。整備手法については、その地形条件から一定の限界もあり、単価も高くつくことが多い。今後、何らかの形で継続するにしても、費用対効果といった論法ではなく、多面的機能を保全する必須事業としての位置付けが必要。	本県は、とくに中山間棚田地域が多く、本事業の継続を要望する声は強い。今後の要整備量は45地区31億円余りが採択希望している。	◆平成10年度（H11.2.26～） ◆4億円 ◆ふるさと水と土基金とセットで預けている。
福岡県	◆0% ◆0円／2700万円	◆1／97市町村 ◆1地区 ◆5.9ha	感想：農道の新設により軽トラック、農業用機械の乗り入れが可能となって、営農が非常に楽になった。 問題点：現時点で石積みのあぜの復旧に、コンクリート法面に玉石を組み込むなど美観を重視しているものの、棚田の觀光的な意味合いから、実際に石積みを復元するなど、より美観を考えた工事を施工してほしい。	実施した地区において、当初の目的は達したと考えている。県全体として継続を望む。	◆平成12年5月予定 ◆3億7500万円 ◆県債購入：3億7000万円 銀行：500万円
佐賀県	◆20% ◆3億3036万円／16億5180万円	◆12／49市町村 ◆32地区 ◆248.8ha	ほ場、農道及び用水路を整備することにより、営農機械・資材の搬入及び用水の管理が容易になり、効率的な農作業が可能となつた。多大な労力を要する畦打ち作業がかなり軽減され、耕作放棄の防止の一助となつた。	農作業の効率化や耕作放棄の防止に効果があり、事業実施について、地元からの強い要望もあることから本事業の継続を望む。	◆平成10年度～平成12年度 ◆6億円 ◆特になし
長崎県	◆内地20%離島25% ◆内地8100万円、離島4億5140万円／21億580万円	◆21／79市町村 ◆8地区 ◆14ha	棚田地域の耕作放棄の第1の原因が耕作道がない、用水の管理が田越しのため、管理が周囲の耕作離れにより、共同作業が成り立たず、年々むずかしくなっていく。こういう状況で、耕作道の整備、用水路のみの整備を実施してもらいたい、非常にありがたいとの地元からの声もある。	継続を望む。3年間と同等程度の30地区。計画書作成に準備期間が充分必要であり、正確につかめていないが、まだ要望量はあると思うので、3～5年程度、継続を望む。	◆平成10～12年度 ◆6億円 ◆特になし。利率が低いので思ったような活動ができない。
熊本県	◆20% ◆2億2946万円／11億4730万円	◆7／94市町村 ◆10地区 ◆146.9ha	現地条件にあわせた農道の舗装など、きめ細やかな整備ができるため、地元からの受けが良い。たとえば、事業を実施した水俣市湯の鶴地区では、耕作道の整備のほか、2haの遊休地に花やハーブを植え「湯の鶴花菖蒲公園」を開設し管理はじめた。平成11年5・6月には、「棚田花ツアー」を実施し、140名が参加した（資料より）。	継続を望む。地域条件にあわせた整備が可能が可能なため、地元からの要望も多い。	◆平成10年12月末 ◆4億円（平成11年度まで）+2億円（平成12年度積み立て予定）→計6億円 ◆特になし
大分県	◆30% ◆2億2600万円／7億5300万円	◆5／58市町村 ◆5地区 ◆31.6ha（受益）	農作業の効率を優先すると、景観的に支障があり、景観を優先すると農作業の効率や工事費の増大となる。	他事業ではできないメニューを導入しつつ計画してもらいたい。「ふるさと水と土ふれあい事業」「新山村振興等農林漁業特別対策事業」等との差別化を図れるのであれば、継続してもらいたい。	◆平成11年度補正より ◆3億円 ◆特になし
宮崎県	◆20% ◆1億4400万円／7億2000万円（平成12年度予定事業含む）	◆4／44市町村 ◆ほ場整備実施数なし ◆面積0	○コンクリート畦畔の施工により、土地の境界争いがなくなった。 ○草刈りの労力等が軽減された。 ○耕起時に畦畔の削りすぎによる崩壊がなくなった。 ○材料支給による地元民の工事施工により、地元の一体感、協力意識が出てきた、と聞いている。 ○このような事業を今後も是非継続してほしい。	きめ細かな事業対応ができるので、継続を希望する市町村が多いと聞いている。要望・賦存量については未確定なところもあり、継続に必要な期間については不明である。	◆平成11年度～平成12年度 ◆4億2000万円 ◆特になし
鹿児島県	◆県営25% 団体営20% ◆24億2981万7千円（総額）	◆19／96市町村 ◆24地区 ◆149.7ha（総受益面積）	—	継続は必要である。棚田を守るために内からだけでは無理があるため、外からの力が必要である。このことを考えると、現在の棚田事業のようなあらゆる面で手助けができる事業があった方がいい。棚田が存在する限り継続は必要と考える。	◆平成10年度 ◆6億円 ◆県債利用
沖縄県	なし	<実施していない理由>本県においては棚田に該当するような水田はないため。			なし

会長がかわりました。

—ごあいさつ—

会長を退任します。



新潟県安塚町長

矢野 学

感動の第4回全国棚田(千枚田)サミットを終え、全国棚田(千枚田)連絡協議会の会長に就任してから早いもので1年が経ちました。

棚田の「機能」と「活用」を前面に出し、会員各位の協力のもと運動を展開してまいりました。特に東京で開催した「棚田パノラマ体験展」では、全国から多くの参加をいただき、棚田に対する理解がさらに得られたものと確信しております。

また、皆様からいただきました意見をもとに少しでも全国に輪が広がることを願い、前向きに検討し、実現努力をしてきました。

この4月からは、三重県紀和町の下川勝三町長さんにバトンをお渡しさいましたが、こうした1年を振り返ります。

最後に、第5回全国棚田(千枚田)サミットでは「未来につなげ、水のピラミッド」と題して下川町長さんはじめ、実行委員会の皆様の協力により、成功のうちに開催できました。

最後に改めて深く御礼申し上げますとともに、協議会役員並びに全国の会員各位、ご支援いただきました農林水産省はじめ、国、県、関係機関の皆様に心から感謝申し上げ、退任のご挨拶いたします。

この度、全国棚田(千枚田)連絡協議会の会長という重責を担うことになり、責務の重大さを痛感いたしますとともに、身の引き締まる思いが致しております。

私は、平成11年4月に紀和町長に就任いたしまして、同年9月には第5回全国棚田(千枚田)サミットが本町で開催され、私もサミット実行委員会会長として、皆様方のご協力をいただき、みのりあるサミットを無事終了できましたことに厚くお礼申し上げます。

併せて、全国津々浦々から多くの方々にご参加をいただきましたが、至らぬ面も多々ありまして、皆様に大変なご不便をお掛けいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

さて会員の皆様におかれましては、日頃より棚田の意義を充分ご理解いただいた中で保護、保全に取り組んでおられますことと思います。

棚田は大きく言えば、国土の保全、生活環境等の公益的に極めて重要な機能を担っています。この貴重な資源を保護し、後世に継承し、併せて文化遺産として、都市住民の皆様との交流や観光施設として、有効に活用していくことが棚田を保全していく一歩として位置づけることができると言えます。

一方では、過疎・高齢化の中で、生産性も低く作業の大変な棚田を守っていくということは、並大抵のことではありません。農家、オーナー、ボランティア、行政等が一体となって知恵と力を出し合う中で、棚田の持つ機能の啓蒙とともに、後世まで継承できるよう國・県への施策の強化も併せ要望していくことも大切なことだと思います。

最後に、会員の皆様が今後ますますご発展されますことを祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

会長に就任します。

三重県紀和町長

下川 勝三



第6回全国棚田(千枚田)サミットへ行こう!!

全国の情報交換ができる場です。ふるってご参加ください。

2000年9月13日(水)～14日(木) 福岡県浮羽町/星野村

テーマ：棚田新世紀(タナダ ルネサンス) — 小さな棚田、大きな役割

■9月13日(水)

- 9:00～ 9:50 全国棚田(千枚田)連絡協議会
理事会／星野村総合保健福祉センター
10:00～ 12:00 総会・首長会議／星野村総合保健福祉センター
12:00～ 12:50 昼食／星野村総合保健福祉センター
13:00～ 14:30 特別講演「柳生 博さん」／星野村総合保健福祉センター
14:30～ 17:30 棚田の里めぐり／浮羽町・星野村
18:00～20:00 交流会／御幸小学校体育館
20:00～ 個人会員のつどい

■9月14日(木)

- 9:00～ 9:30 開会式／浮羽町民ホール
9:30～10:20 基調講演「中島 峰広さん」／浮羽町民ホール
10:20～10:50 事例発表／浮羽町民ホール
11:00～12:30 パネルディスカッション／浮羽町民ホール
12:30～13:30 昼食／浮羽町民ホール
13:30～15:00 記念講演「立松 和平さん」／浮羽町民ホール
15:00～15:10 共同宣言／浮羽町民ホール
15:10～15:20 閉会式／浮羽町民ホール

問い合わせ・申し込み：福岡県浮羽町企画振興課 TEL: 09437・7・2111
福岡県星野村企画振興課 TEL: 0943・52・3111

福岡県浮羽町

取材・文 石井里津子

棚田を広告塔に わが町を売り込む その中で保全の道が 開かれていく

町を売り込む力

今年3月半ばのこと。福岡県浮羽町葛籠地区が、NHKの30分TV番組で棚田の里として紹介された。町の企画振興課、瀧内宏治さんは「投げ込みが功を奏しました」と満面の笑みをたえた。番組担当者宛に送つておいた町の棚田保全の情報が目に留まったのだろうという。

瀧内さんのPR作戦は凄まじい。取り上げてほしいマスコミに情報をどんどん送り、手紙を書く。講演会などにも足を運び、会場でも知り合いをつくる。EMAILでこまめに情報を送る。

2万5千人が訪れる 「彼岸花めぐり」

町がアピールしている棚田は、車で南へ30分ほどの葛籠地区にある。石積みの棚田が7町歩の広さに約300枚あり、「棚田百選」にも指定されている。

今年で6年目を迎えるイベント「棚田inうきは彼岸花めぐり」である。黄金色の稲とあぜに咲くなどフルーツの売り上げにも影響する。そしていまや、成功にはマスコミの力は欠かせない。新聞やテレビで取りあげてもらうこととは、地元にとって大きな励みとなり、活性化の潤滑油となつただけでなく、町全体の棚田保全の気運を大いに盛り上げていったのである。

「秋、葛籠の石垣に彼岸花が一面咲き誇つとするばい。まるで美術館のごとある(のようだ)」といったことがきっかけで、このイベントがはじまつた。

11 The terraced rice field news

浮羽町は人口約1万7千人。福岡市内から車で約1時間、JR線も通り、交通の便が良い。以前から筑後温泉など観光産業も盛んだったこともあり、グリーン・ツーリズムを開拓するにはもってこいである。

グリーン・ツーリズムの成功は、主幹産業の柿、ぶどう、桃などフルーツの売り上げにも影響する。そしていまや、成功にはマスコミの力は欠かせない。新聞やテレビで取りあげてもらうこととは、地元にとって大きな励みとなり、活性化の潤滑油となつただけでなく、町全体の棚田保全の気運を大いに盛り上げていったのである。

今年で6年目を迎えるイベント「棚田inうきは彼岸花めぐり」である。黄金色の稲とあぜに咲くなどフルーツの売り上げにも影響する。そしていまや、成功にはマスコミの力は欠かせない。新聞やテレビで取りあげてもらうこととは、地元にとって大きな励みとなり、活性化の潤滑油となつただけでなく、町全体の棚田保全の気運を大いに盛り上げていったのである。

今年で6年目を迎えるイベント「棚田inうきは彼岸花めぐり」である。黄金色の稲とあぜに咲くなどフルーツの売り上げにも影響する。そしていまや、成功にはマスコミの力は欠かせない。新聞やテレビで取りあげてもらうこととは、地元にとって大きな励みとなり、活性化の潤滑油となつただけでなく、町全体の棚田保全の気運を大いに盛り上げていったのである。

11 The terraced rice field news

浮羽町は人口約1万7千人。福岡市内から車で約1時間、JR線も通り、交通の便が良い。以前から筑後温泉など観光産業も盛んだったこともあり、グリーン・ツーリズムを開拓するにはもってこいである。

突然、山の中に現れる棚田は、どこか神聖な緊張感が漂つている。何百年ものあいだ、山の神に守られ、さんざめく木々と語らいながら、静かにたたずんできたせいだろうか。

かつて林業で栄えたこの地区には40戸が暮らしていたが、現在は10戸である。その10戸の集落に、秋の4日間、2万5千も人が訪れている。

今年で6年目を迎えるイベント「棚田inうきは彼岸花めぐり」である。黄金色の稲とあぜに咲くなどフルーツの売り上げにも影響する。そしていまや、成功にはマスコミの力は欠かせない。新聞やテレビで取りあげてもらうこととは、地元にとって大きな励みとなり、活性化の潤滑油となつただけでなく、町全体の棚田保全の気運を大いに盛り上げていったのである。

11 The terraced rice field news

浮羽町は人口約1万7千人。福岡市内から車で約1時間、JR線も通り、交通の便が良い。以前から筑後温泉など観光産業も盛んだったこともあり、グリーン・ツーリズムを開拓するにはもってこいである。

突然、山の中に現れる棚田は、どこか神聖な緊張感が漂つている。何百年ものあいだ、山の神に守られ、さんざめく木々と語らいながら、静かにたたずんできたせいだろうか。

かつて林業で栄えたこの地区には40戸が暮らしていたが、現在は10戸である。その10戸の集落に、秋の4日間、2万5千も人が訪れている。

突然、山の中に現れる棚田は、どこか神聖な緊張感が漂つている。何百年ものあいだ、山の神に守られ、さんざめく木々と語らいながら、静かにたたずんできたせいだろうか。

11 The terraced rice field news

浮羽町は人口約1万7千人。福岡市内から車で約1時間、JR線も通り、交通の便が良い。以前から筑後温泉など観光産業も盛んだったこともあり、グリーン・ツーリズムを開拓するにはもってこいである。

突然、山の中に現れる棚田は、どこか神聖な緊張感が漂つている。何百年ものあいだ、山の神に守られ、さんざめく木々と語らいながら、静かにたたずんできたせいだろうか。

かつて林業で栄えたこの地区には40戸が暮らしていたが、現在は10戸である。その10戸の集落に、秋の4日間、2万5千も人が訪れている。

突然、山の中に現れる棚田は、どこか神聖な緊張感が漂つている。何百年ものあいだ、山の神に守られ、さんざめく木々と語らいながら、静かにたたずんできたせいだろうか。

11 The terraced rice field news

募集・イベン情報

●「日本の棚田百選」 フォトコンテスト募集中!

(社) 農村環境整備センターが主催する第6回「私の好きな日本の農村」フォトコンテストが、「日本の棚田百選」の認定を記念して、「日本の棚田」をテーマに作品を募集している。

2000年12月25日(当日消印有効)応募先・問:農村環境整備センターTEL03・5484・4521「日本の棚田百選」の認定棚田はホームページを。

<http://www.acres.or.jp>

●「ふるさとの水と土体験展」 子ども絵画作品募集中!

全国土地改良事業団体連合会等が主催する「ふるさと田んぼと水」子ども絵画展で、中学生以下の作品を募集している。

テーマは「ふるさとの田んぼと水」で、田んぼ、棚田、ため池、小川、そこに生きる生きもの、農作業の様子など。〆切は2000年7月17日必着。八つ切り用紙以上。応募先・問:ふるさとくらばん内絵画展係TEL042・381・6721

●連続講座「棚田」第2期 受講生募集中!

8月3日(木)14時から東京日本橋三越本店にて開催。入場無料。問:381・6721

7月19日18:30~「地元学によ

●山口市で棚田パネルディスカッション&農村ミュージカル

棚田学会と食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議が主催で7月8日(土)15:15~

パネルディスカッション「農業の持続的発展―棚田に見るその可能性」が山口市民会館で開催される。その後ふるさときやら

ばんミュージカル「噂のファミリー」の上演。共通参加券:3000円。申込・

TEL083・933・34233
TEL03・5261・4334

●「ふるさとの水と土体験展」 7月25日~8月6日開催

昨年の「棚田パノラマ体験展」を受けて、今年は全国土地改良事業団体連合会・都道府県土地改良事業団体連合会が主催し「ふるさとの水と土体験展―水の道・通潤橋」、棚田、めだか、河童が7月25日~8月6日まで東京日本橋三越本店にて開催。入場無料。問:ふるさとくらばんTEL042・381・6721

●棚田学会シンポジウム開催

8月3日(木)14時から東京日本橋三越劇場にて、棚田学会の1周年記念シンポジウムが開催される。問:棚田学会事務局TEL042・381・6721

●棚田情報を交換できる 小学校を探しています。

福岡県浮羽町の姫治小学校で、インターネットを使って棚田の学習など地域の棚田情報を交換できる小学校を探している。詳しくは、浮羽町役場企画振興課TEL09437・7・21

「文化の原点は農にあり」との信条

にもとづき、身障者としてのハンディと闘いながら全国の棚田保全運動に対し独自の立場から連帯の意志を改めて表明したいと思います。

【賛助会員】フォト・クリエイトS
フリー・フォト・ジャーナリスト:

佐藤 真一

HPアドレス:
<http://www.minc.ne.jp/~megan3/photo>

お便り
テラス

ふるさとの原風景ー九州の棚田
の写真撮影を6ヶ月
前から取り組んでま
いり、この4月~6月
で一応の目標地を力バー
できる見込みとなりました。

●伊根町新井棚田応援団 (年会費会員) 募集中!

京都府伊根町の棚田を保全しようと市民グループが活動中。農作業体験をしながら保全・地域の活性化に協力する応援団を募集中だ。1口年間1万円。特典は、棚田収穫米5キロ+伊根地酒もしくは鮮魚。申込・問:伊根と新井の千枚田を愛する会TEL072・872・6847

当面の予定として「ふるさとの原風景ー九州の棚田」の写真集出版(現在出版社などと交渉中)同写真展の開催

(期日:平成13年2月27日~3月4日)
場所:鹿児島県黎明館・出品点数約80点)を計画中です。

会員募集中

全国棚田(千枚田)連絡協議会
お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

三重県紀和町 企画観光課

〒519-5413 三重県南牟婁郡紀和町板屋78
TEL 05979-7-1111 FAX 05979-7-1003

新しく会員になったみなさま

正会員(自治体) 山口県錦町

編集後記

各都道府県、棚田保全ご担当者のみなさま、棚田保全の取り組みアンケートにお答えいただき、誠にありがとうございました。各地域同士の情報交換などにご利用いただきたいと思います。

次号の特集は「棚田のもつ教育力」です。各学校、地域における棚田での教育の取り組みをリポートしたいと思います。みなさまの地域の情報を7月末までにお寄せください。お待ちしています。

前号、誤字がありました。p2、4段目7行目「得異な」→「特異な」です。訂正のほどよろしくお願い申し上げます。

石井里津子